

海住山寺：五重塔

海住山寺の五重塔は日本の国宝に指定されています。鎌倉時代の五重塔の貴重な遺構であり、総高 17.7 あります。この塔はお釈迦様(シッダールタ)の遺骨である仏舎利を安置するために建てられました。シッダールタが亡くなった時、彼の遺体は彼の弟子によって火葬されました。遺骨の骨片は「仏舎利」と呼ばれ、中興の解脱上人貞慶(1155－1213)が上皇から拝領した仏舎利二粒を海住山寺に安置しました。それらを祀るために、この五重塔は建てられました。五重塔が最初に建てられた時、5つの層だけで一番下の層（裳階）はありませんでしたが、十数年後に裳階が取り付けられました。しかし、その後の修繕の際に、裳階は取り外されました。その後、1962年に復元された時、裳階は再度取り付けられました。海住山寺五重塔には初重に裳階が付設されており、裳階は「重」の一つには数えられないものです。江戸時代から造られた裳階が付いている五重塔は、現在 2 つしか残っていません。海住山寺の塔はその 2 つの中の一つです。海住山寺の四天王はこの五重塔の中にありましたが、現在は奈良国立博物館へ寄託されています。